

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

市岡小	学校	児童数	38
-----	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
男子	◎17.5	▼18.71	◎37.9	37.14	▼35.85	▼9.58	▼148.3	◎24.1	○52.33
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
女子	◎17.0	▼16.16	◎41.72	▼31.36	22.82	▼10.08	○139.83	▼10.72	▼48.80

◎:全国・大阪市平均ともに上回っている ○:全国・大阪市平均のどちらかを上回っている  
▼全国・大阪市平均のどちらかが下回っている ▼全国・大阪市平均ともに下回っている

### 結果の概要

まず本年度の体力テストについて、男子は体力合計点を含む4種目において大阪市及び全国平均を上回る結果となり、女子は3種目において両方の平均またはどちらかの平均を上回る結果となった。

次に児童質問紙における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に対する肯定的な回答（好き・やや好き）について、男子は89.9%で大阪市及び全国平均より5ポイントほど低い結果となったが、女子は66.7%で両方の平均と20ポイントほど下回る結果となった。また1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合について、男子は14.3%で大阪市及び全国平均より3ポイント多い結果となったが、女子は40.0%で両方の平均より20ポイント以上多い結果となった。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

講堂新築工事に伴う約3年間の運動場使用制限が解除され、本年度は当初から新しい講堂や広くなった運動場を存分に活用することができた。昨年度からの課題を受け、日常の体育科学習に加え、季節に応じたスポーツ集会など、児童が楽しく運動に取り組める環境づくりを進めてきた。その成果と、地域のスポーツクラブ（野球やソフトボール等）に所属する児童が多いという本校の特性が相まって、男子の「ソフトボール投げ」は全国および大阪市の平均を大きく上回る結果となった。また、男女ともに「握力」や「長座体前屈」が両平均を上回っており、基礎的な筋力や柔軟性に一定の向上が見られる。体力合計点においても、男子は52.33点と大阪市平均（51.54点）を上回ることができた。

運動環境が大幅に改善された一方で、全身を使った運動能力には依然として課題が残る。種目別に見ると、男女ともに「上体起こし」が両平均を下回っている。さらに、昨年度は「走」の種目でも両平均を上回る傾向があったが、本年度の男子は「50m走」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」といった瞬発力や全身持久力を要する種目で全国・市平均とともに下回った。女子についても「反復横とび」や「ソフトボール投げ」が平均を下回っており、女子の体力合計点は48.8点と両平均に届かない厳しい結果となった。

体力合計点の課題に加え、昨年度顕著に表れていた「運動習慣の二極化」の解消が引き続きの重要課題である。今年度の校内児童質問紙において、「運動やスポーツをすることは好きですか」という項目への肯定的な回答割合は88%であり運動が好きな児童は多くいる。また、土日のスポーツイベントや地域クラブへの勧誘など地域連携を進めてきたものの、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子14.3%であり、女子については40.0%も存在している。特定のスポーツクラブに所属している児童が「投」などの一部種目で高い記録を出す一方で、そうでない児童の基礎体力が低下している傾向がうかがえる。

次年度は、広くなった運動場や新しい講堂というハード面のメリットをさらに生かしつつ、運動が得意でない児童でも日常的に楽しく体を動かせるよう、更なる工夫や遊びの充実を図り、また運動が得意な児童はより自信をもって取り組めるよう学校全体での運動時間の確保と体力・運動能力の底上げに努めていく。









小学校





































